Max Classroom.net 入試問題アプローチ 2018

立教大学

(試験時間 理学部60分、その他75分)

A 入試概況

2019年度入試の日程

2013 中皮八的	V*> F	ملدار ب													
	文	現代		法	経済		経営	社会	観光		11 W			異文	理
		心						, ,			福			化	
		理									祉			コ	
		心	映		経	経			交	観	コ	ス	福	111	
		理	像		済	済			流	光	3	ポ	祉		
			身		政				文		政	ウ			
			体		策				化		策	工			
2月6日					全	2学部	3/英	語外	部試	験利月	刊				
2月8日				\circ	\circ									0	
2月9日															\circ
2月11日	0														
2月12日		\circ					\circ		\circ		\circ				
2月13日						\circ				\circ		\circ			
2月14日			\circ					0					0		

全学部入試 (3 教科方式): 過去3年間の受験者数、合格者数、倍率

		20	18 年度入	.試	20	17 年度入	.試	20	16 年度入	.試
		受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
文	3 科	1,627	249	6.5	1,271	317	4.0	1,390	294	4.7
	グロ	559	73	7.7	249	61	4.1	55	37	1.5
現代心理	3 科	589	86	6.8	520	100	5.2	531	93	5.7
	グロ	140	11	12.7	82	15	5.5	14	11	1.3
法	3 科	605	139	4.4	828	150	5.5	650	180	3.6
	グロ	160	23	7.0	150	22	6.8	34	29	1.2
経済	3 科	892	184	4.8	985	195	5.1	701	166	4.2
	グロ	194	36	5.4	218	35	6.2	30	23	1.3
経営	3 科	534	56	9.5	708	98	7.2	603	90	6.7
	グロ	594	67	8.9	177	47	3.8	80	34	2.4
社会	3科	1,107	198	5.6	970	181	5.4	750	152	4.9
	グロ	385	44	8.8	182	45	4.0	51	20	2.6
観光	3科	545	68	8.0	465	89	5.2	432	75	5.8
	グロ	156	14	11.1	90	15	6.0	30	10	3.0
コミ福祉	3科	789	118	6.7	627	124	5.1	576	112	5.1
	グロ	171	13	13.2	69	15	4.6	13	10	1.3
異文化コ	3 科	209	17	12.3	223	17	13.1	273	37	7.4
	グロ	75	13	5.8	87	6	14.5	49	11	4.5
理	3 科	670	107	6.3	623	118	5.3	769	100	7.7
	グロ	182	28	6.5	70	20	3.5	12	6	2.0
<u>-</u>	-	10,183	1,544	6.6	8,594	1670	5.1	7,043	1490	4.7

^{*}合計の倍率は全体受験者:全体合格者の計算式で算出

MAX 入試問題アプローチ 2018 立教

一般個別入試: 過去3年間の受験者数、合格者数、倍率

	20	18 年度入	試	20	17 年度入	.試	20	16 年度入	.試
	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
文	5,321	924	5.8	4,997	875	5.7	467	1,200	4.1
現代心理	1,757	169	10.4	1,574	170	9.3	1,432	264	5.4
法	3,890	970	4.0	3,483	861	4.0	3,862	1,034	3.7
経済	4,564	631	7.2	5,388	132	8.9	4,571	825	5.5
経営	2,717	179	15.2	2,658	183	14.5	2,626	234	11.2
社会	4,710	388	12.1	4,517	489	9.2	4,305	622	6.9
観光	3,128	412	7.6	2,526	389	6.5	2,578	449	5.7
コミ福祉	2,392	271	8.8	2,334	300	7.8	244	427	5.3
異文化コ	1,281	120	10.7	1,558	111	14.0	1,607	121	13.3
理	2,211	613	3.6	2,398	593	4.0	2,930	778	3.8
-	31,971	4,677	6.8	31,433	4,591	6.8	31,022	5,954	5.2

^{*}合計の倍率は全体受験者:全体合格者の計算式で算出

方式別の募集人数と過去2年間の倍率

77 - 47 1 · 1 · 27 · A · 7 · 29 · C ·		一般入記			全学部			全学部		Ų.	センター	-
		個別		3 教科			グロ	ーバル	方式			
	募集	倍	率	募集	倍	率	募集	倍	率	募集	倍	率
		'18	'17		' 18	'17		'18	'17		'18	'17
文	380	5.8	5.7	100	6.5	4.0	29	7.7	4.1	96	4.7	3.3
現代心理	99	10.4	9.3	40	6.8	5.2	6	12.7	5.5	54	7.6	4.0
法	235	4.0	4.0	55	4.4	5.5	12	7.0	6.8	50	5.2	3.4
経済	292	7.2	8.7	80	4.8	5.1	22	5.4	6.2	75	8.6	5.2
経営	124	15.2	14.5	46	9.5	7.2	36	8.9	3.8	45	20.6	8.3
社会	225	12.1	9.2	51	5.6	5.4	15	8.8	4.0	72	5.8	3.9
観光	190	7.6	6.5	25	8.0	5.2	10	11.1	6.0	40	11.8	3.9
コミュニティ福祉	167	8.8	7.8	50	6.7	5.1	9	13.2	4.6	55	7.3	5.1
異文化コミュ	60	10.7	14.0	10	12.3	13.1	5	5.8	14.5	8	14.4	14.1
理	157	3.6	4.0	26	6.3	5.3	5	6.5	3.5	36	4.1	3.1

大学全体の3年間の合格者数と倍率の変化

2018	5年度	2017	年度	2016 年度			
合格者数	倍率	合格者数	倍率	合格者数	倍率		
10,452	6.9	11,260	5.6	12,838	4.7		

まずは大学全体の動きであるが、2016年度は絞り込みを前年度比 97%にとどめ、志願者減により倍率を 0.3 ポイントほど下げたが、2017年度、2018年度と絞り込みが加速している。2017年度は前年度比 88%まで絞り込み、倍率を 0.8 ポイント上げた。2018年度は 93%と前年度ほどではないが、さらに絞り込みを強化した。

2018 年度の一般入試の結果を見ると、志願者が増えたため倍率は変わっていないが、合格者自体は 2017 年度よりも増えているのが実情だ。しかし、大学全体の合格者を見ると、2017 年度 11,260 人から 10,452 人と減らし、倍率も 1.3 倍上昇している。その点からも 2018 年度の合格者絞り込みは全学部入試、センター方式で特に顕著だったと言える。

MAX 入試問題アプローチ 2018 立教

過去3年間の入試方式別の偏差値

	-	一般入記	\$		全学部			全学部		٤	センター	_
		個別		3 教科			グローバル方式					
	'18	'17	'16	'18	'17	'16	'18	'17	'16	'18	'17	'16
文	65.6	65.3	64.5	65.0	65.0	63.2	66.3	64.5	62.7	68.7	68.9	68.2
現代心理	63.7	66.7	63.5	66.5	64.3	62.6	64.1	65.2	57.7	68.4	67.0	66.8
法	67.1	64.8	65.4	66.9	63.0	64.0	68.9	67.4	63.4	69.7	68.3	67.5
経済	67.3	65.8	66.3	66.3	68.2	66.7	66.7	68.1	59.8	69.9	68.5	67.1
経営	67.9	69.5	66.9	68.8	69.2	68.7	68.8	68.8	71.9	69.8	69.5	68.8
社会	69.4	68.3	67.1	68.2	71.7	67.5	72.6	78.3	70.0	69.8	68.6	68.5
観光	62.5	63.3	63.5	68.8	63.8	65.1	66.4	63.4	65.0	68.0	66.7	66.3
コミュニティ福祉	61.0	62.3	59.0	62.3	59.7	60.1	69.9	65.5	60.0	62.6	63.0	62.9
異文化コミュ	69.7	71.4	68.6	66.7	69.8	67.8	70.0	62.9	59.4	72.1	71.3	69.2
理	62.5	63.0	62.8	64.0	62.4	62.7	61.3	60.0	58.8	65.0	64.6	66.6

入試方式別に合格者の平均偏差値を見ると、グローバル方式が一般入試よりも高いことがうかがえる。他大学では外部利用試験はまだ敬遠され、偏差値が一般入試よりも低く出ることが傾向としてあるが、立教の場合は、もともと一般個別よりも偏差値が高く出る全学部入試で外部利用試験を採用していること、そして1年目の低倍率の反動として狙われたことがこの高い偏差値をもたらしたと言える。募集単位が小さいこともあり、その増加が一気に倍率として表れるこの方式であるが、倍率だけ見るとすべての方式の中で一番高い数字を出している学部も見られる。特筆すべきなのは異文化コミュニケーションのグローバル方式である。倍率だけ見ると 2017 度の 14.5 倍から 2018 年度の 5.8 倍まで大幅に数字を下げているが、これは英語外部試験のスコア基準が高められたからである。実際に合格者偏差値を見ると、2017 年度までは 62.9 と他の方式よりも低かったが、2018 年度は一気に 70.0 という数字に載せ、一般個別、全学部方式を超えた。

B 英語試験の概況

立教大学は、いくつか構成や傾向のパターンがあるものの、年度や学部、日にちによって難易度や傾向にバラツキが出ないように入試問題の質や傾向の統一を図っている大学である(記憶が正しければ、各学部の作問担当者が精査をし、学部間の調整をしていると聞いたことがある)。これまで解いた中では本当にばらつきがなく、難易度や質が見事に整えられているように感じる。

2014年~2018年の5年分の入試を見たところ、全学部型、文系学部型、理系学部型の3つに分類されることが分かる。

3つのパターン

A パターン: 全学部型(75 分)

・読解2題、文法語法、会話など3題

Bパターン: 文系学部型(75分)

- ・読解2題、文法語法、会話など2題、空所筆記1題
- ・2月11日の文学部は英文和訳の設問が1つある

C パターン: 理系学部型 (60 分)

・読解1題、文法語法、会話など4題

全体の傾向まとめ

- ① 大問は5つから成る(2017年度の2月8日は例外的に6問の構成となっていたが、2018年度は5問に戻った)。
- ② 全学部、文系学部では最初に 2 つの長文読解が出題され、各 9~10 問出題される(試験時間 75 分)。 $\cdot 2$ 月 11 日の文学部のみ、長文読解の中に 1 問和訳問題が含まれる。
- ③ ただし、2月9日の理学部のみ、長文読解は1間である(試験時間60分)。
- ④ 残りの3題(理学部は4題)は文法、語法、会話、ミニ読解における空所補充などで構成される。 どのような組み合わせになるかの絶対的な法則はないが、会話形式が1題、文法語法や単語に関 するものが1題は出題されることが通例と思われる。ただし、文法語法、会話の出題形式には様々 なものが見受けられる。
- ④ 2月8日、11日、12日、13日、14日の最後の大問は、ミニ長文の中で5~6つの空欄に入る語を 記述する問題が出される(空所筆記)。

2018年度入試の大問構成

	全学部	2月8日	2月9日	2月11日	2月12日	2月13日	2月14日
	Aパターン	Bパターン	Cパターン	Bパターン	Bパターン	Bパターン	Bパターン
1	読解						
2	読解	読解	ミニ読解	読解	読解	読解	読解
3	文法語法	間違い探し	会話	間違い探し	会話	間違い探し	空所選択
4	会話	会話	ミニ読解	会話	文法語法	会話	会話
5	空所選択	空所筆記	文法語法	空所筆記	空所筆記	空所筆記	空所筆記

【時間と難易度の目安】

	内容・語数	時間	難度
1	読解	各 30	\mathbf{C}
2	読解		
3	文法語法、会話、ミニ読解の空所補充など	4~6	B/C
4			
5	空所筆記	5	D

長文の長さが 2 題合計で $1800\sim2200$ 語であり、設問も英語での文が並ぶ中で 75 分という試験時間 を考えるとなかなかハードなテストと言える。しかも、2018 年度の全学部では長文が 2 台合計で 2500 語を超えるというこれまでにない長さとなった。

時間配分は構成パターンに限らず、長文 1 つにつき 30 分というのが目安になるだろう(理学部は長文が 1 題のためもう少し時間をとっても良いが、それでも 35 分を 1 つのメドとする)。そして、文法語法、会話、ミニ読解などは 1 つ5 分がおおよその目安で、難易度や長さを見ながら調整をしていきたい。次に述べるように、長文読解を後に回し、その時間を確保しておきたいのでこれらの問題が早く終わるに越したことはない。長いものは 5 分以上かかってもよいが、3 問合計で 15 分というのも 1 つの目標にしておこう。特に、文系学部の最後の大問である空所筆記は難易度の高い問題だが、ここであまり大幅に時間を消費しないようにしたい。

30 分というボリュームの長文問題を 2 セットこなすわけで、ここでうまく時間配分が取れなければ全てが崩れてしまう。リスクヘッジをとるために、まずは長文以外のものを先に片づけてしまおう。その時点で 60 分以上残っているのが理想で、それをざっくり 30 分に二等分するようにしよう。

問題の難易度としては、時間も考慮すると MARCH でも高めと言える。長文はすごく難しいものが 出されているわけではないが、逆に簡単なものもなく、どれを読んでもそれなりに難しく感じる。総じ て大学入試としては質の高い問題が出されているように思える。

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

① 長文読解問題

【2018年 2月8日 大問1】

次の文を読み、下記の $1\sim10$ それぞれに続くものとして、本文の内容ともっともよく合致するものを、各イ~ニから1つずつ選び、その記号を解答用紙の所定欄にマークせよ。

Gregory Currie, a professor of philosophy at the University of Nottingham, recently argued in the *New York Times* that we ought not to claim that literature improves us as people, because there is no "compelling evidence that suggests that people are morally or socially better for reading Tolstoy" or other great books. Actually, there is such evidence. Raymond Mar, a psychologist at York University in Canada, and Keith Oatley, a professor of psychology at the University of Toronto, reported in studies published in 2006 and 2009 that individuals who often read fiction appear to be better able to understand other people, empathize with them and view the world from their perspective. This link persisted even after the researchers considered the possibility that more empathetic individuals might choose to read more novels. A 2010 study by Mar found a similar result in young children: The more stories they had read to them, the keener their "theory of mind," or mental model of other people's intentions.

"Deep reading" — as opposed to the often superficial reading we do on the Web — is an endangered practice, one we ought to take steps to preserve as we would a historic building or a significant work of art. Its disappearance would threaten the intellectual and emotional development of generations growing up online, as well as the perpetuation of a critical part of our culture: the novels, poems, and other kinds of literature that can be appreciated only by readers whose brains, quite literally, have been trained to apprehend them.

Recent research in psychology and neuroscience has demonstrated that deep reading — slow, immersive, rich in sensory detail and emotional and moral complexity — is a distinctive experience, different in kind from the mere decoding of words. Although deep reading does not, strictly speaking, require a conventional book, the built-in limits of the printed page are uniquely conducive to the deep reading experience. A book's lack of hyperlinks, for example, frees the reader from making decisions (Should I click on this link or not?), allowing her to remain fully immersed in the narrative.

That immersion is supported by the way the brain handles language rich in detail, nuance, and metaphor: by creating a mental representation that draws on the same brain regions that would be active if the scene were unfolding in real life.

(中略)

- 1. The main purpose of the first paragraph is
 - \vec{A} . to show how important it is to be able to understand other people.
 - \Box . to describe recent findings on the effects of reading literature.
 - ∴ to support the position of Gregory Currie's New York Times article.
 - =. to question the benefit of reading books among young people.
- 2. The author compares deep reading to a historic building (paragraph 2) to suggest that deep reading is

 - □. important for its historical value.
 - ∴ worth preserving.
 - =. out of date in the modern world.
- 3. The underlined words "conducive to" (paragraph 3) are closest in meaning to
 - \checkmark . favorable to.
- □. parallel to.

- 二. typical of.
- 4. According to the passage, surfing on the Internet
 - \vec{A} . is a better form of mental exercise than deep reading.
 - □. offers more insight into real life than does deep reading.
 - ∴ is less emotionally satisfying than deep reading.
 - =. draws on the same areas of the brain as does deep reading.
- 5. The study by Britain's National Literacy Trust showed that, compared to young people who read printed materials every day, those who read only onscreen were
 - ✓. more likely to have a favorite book.
 - \Box . less likely to be good readers.
 - ∴ more likely to enjoy reading.
 - =. less likely to spend time with friends.
- 6. Research by Maryanne Wolf suggests that
 - ✓. people are born with "reading circuits."
 - \Box . the brain offers little support for spoken language.
 - →. people must teach themselves how to speak.
 - =. learning to speak is easier than learning to read.

【形式】

 $800\sim1200$ 語の長文を読み、 $9\sim10$ の設問に答える。2 月 11 日文学部の場合は、片方の長文に英文和訳が 1 問出される($20\sim25$ 字程度の字数制限あり)

【分析】

立教の長文の大きな特徴の1つは、本文に空欄を一切加えないということである(青山学院は全ての問題ではないが基本的に同じ傾向が見て取れる)。これには「英語を途切れることなく直読&速読して、要旨を理解してほしい」という出題者の意図を感じる。これは長文の長さ、内容理解をほぼ徹底して求めている設問からも同じことが言え、青学と並ぶミッション系として英語へのこだわりが見え隠れする。長文の長さは1000 語前後のものが多く出されており、2 題合計で1800~2000 語が相場であるが、2000 語を超えることも珍しくない。試験時間75分ということを考えればかなりのボリュームである。理学部の場合は60分試験で長文は1 題しか出ないが、ここのところを見る限り1000 語を超える文章が

2018年度の長文の語数

	全学部	2月8日	2月9日	2月11日	2月12日	2月13日	2月14日
長文1	1540 語	990 語	1180 語	1180 語	1010 語	760 語	1280 語
長文2	1030 語	960 語		1080 語	1190 語	950 語	790 語
合計	2570 語	1950 語	1180 語	2260 語	2200 語	1710 語	2070 語

2017年度の長文の語数

	全学部	2月8日	2月9日	2月11日	2月12日	2月13日	2月14日
長文1	1020 語	800 語	1100 語	990 語	1130 語	990 語	860 語
長文2	740 語	1140 語		1120 語	1130 語	910 語	910 語
合計	1760 語	1940 語	1100 語	2110 語	2260 語	1900 語	1770 語

過去5年間の長文2題(2月9日は1題)の合計語数

出されており、理系としては苦しい出題と言えるだろう。

	全学部	2月8日	2月9日	2月11日	2月12日	2月13日	2月14日
2018年度	2570 語	1950 語	1180 語	2260 語	2200 語	1710 語	2070 語
2017年度	1760 語	1940 語	1100 語	2110 語	2260 語	1900 語	1770 語
2016年度	1890 語	2250 語	1070 語	1950 語	2060 語	1820 語	2370 語
2015 年度	2000 語	2080 語	1156 語	1721 語	2400 語	1560 語	1868 語
2014 年度	1963 語	1891 語	1380 語	2110 語	2270 語	2150 語	1498 語

文章難易度は私が解いた感触では全て「やや難」と言ったところか。センターレベルは一切お目にかからず、かといって超難解なものもない。また私自身は8つの長文問題を解いたが、長文、設問ともに大きなレベル差を感じず、どれも「何となく難しい」と思いながらもなんとか読み進めていけるもの、といった感じだろうか。ある意味、レベル感も含めて統一されており、非常によく精査できている。

設問は、文脈での意味判断を求める単語や語句の問題も含めて、内容理解、特に大意の把握に重点を置いている。前ページの例を見ても、問 1「どのようなことを示すために○○の例を出したのか」、問 3「パラグラフのメインアイデアは何か」といったような問題が典型的である。他にも「このパラグラフは何を示すためにあるのか」「筆者は以下のどれに賛成すると思われるか」「この文章の適切なタイ

トルは何か」といった問題も頻出。具体的な設問もあるが、それも細かい理解というよりはパラグラフ内のキーワードに焦点を置いている。全体として、具体例などをもとにパラグラフやキーコンセプトが理解できているのかということを問う問題(マクロ的な理解を問う問題)が多い。

【アプローチ】

文量が多く、やや難しいため、First Reading も時間がかかるが、設問も概要を聞かれているからこそ抽象的な選択肢が多く、Second Reading もサクサク解いていけるものが少ない。どちらかと言うと、パラグラフ全体をもう一度読み直して、その趣旨や例を選択肢の示すイメージと突き合わせて確認しなくてはならず、細かい点も含めて選択肢を決めるとなると思った以上に時間がかかる。1000 語を超える問題では、文章の読みづらいものは私も First Reading で 10 分近くかかったため、受験生なら First Reading を 12~13 分、問題を解くのが残りの 17 分としたい。First Reading で 15 分かかるレベルの受験生は、上記のイメージの突き合わせと選択肢の絞り込みが求められる中で、問題を 15 分で解ききることはできないと思う。全体を通して分からないということは困るが、具体例が分からないというぐらいであればそのパラグラフを読み飛ばしてでもまずは First Reading を完結させて問題にかかろう。

またいくつかテクニック的なことを言えば、まず、設問でパラグラフ番号が出てくるため読む前に本文にパラグラフに番号を振っておくとよい。次に文章が長く、問題を解く際に該当箇所を探すことに時間が取られることがあるため、本文のキーテーマや重要なセンテンス(そのパラグラフの主論が書かれているなど)になるものは下線をつけながら読んでいけるとよい。

事前に設問文に目を通しておき、キーワードを意識しておきたい。あとは本文を読む中で、パラグラフごとに主題や主張、結論の部分を意識し、場合によって下線を引いておこう。

さらに、問題を解く際、選択肢を見る前にパラグラフを読み直ししてしまうことが多いが、長い文章を効率的に読んでいくためには、選択肢のイメージとニュアンスをつかむために先に選択肢を見てから Second Reading に入ることが望ましい(そう思いつつも、私は何回も先走ってしまったが)。

【MAX 感想】

First Readingでは、必ずしもすらすらと読めるものでもなく、ボーっと読むと論旨が分からなくなることがあり、何度も気を引き締めて読み直すと言うことがあった。分析で書いた通り、「なんとなく難しく、なんとなく読めて、なんとなく選択肢もあいまいで、でもなんとなくあっていた」という感じが過去問を7題解いた感想である。選択肢の抽象度が高く、マクロ的な理解を求めているため、選択肢を絞り切れずに「これだよな?」というやや確信が薄い中で解答していく問題があった。

また、First Readingでリード文を読みながら進めようとトライしたが、設問は順番に出ているものの後の流れも読まなきや判断できないものがあり、非効率かつ非現実的だと思って途中でやめた。例えば、「第1段落のアイデアとして言えるのは何か」という問いに対して、第2段落以降と比較対照して初めて答えが出るものがあるなど、無駄な試行錯誤と労力が増えるだけだと感じた。

問題はやはり時間である。First Reading で $8\sim12$ 分、Second Reading で $10\sim15$ 分かかった。パラグラフ単位の読み直しを求められる箇所が多く、時間がかかる。

② ミニ読解問題

【2018年 2月14日 大問3】

次の空所(1)~(8)を補うのにもっとも適当なものを、それぞれ対応する各イ~ニから 1 つずつ選び、その記号を解答用紙の所定欄にマークせよ。

At birth, human infants are prepared to make the sounds of any language in the world. In the quiet moments as they awaken or (1) they go to sleep, it is (2) to hear infants "practicing" many sounds. However, within a few weeks, the infant's range of language sounds will begin to (3). The highly efficient computer that is her brain is (4) to conserve energy and effort. Slowly but surely, the infant will dispose of the "extra" sounds and rhythms, focusing in on only those she (5) to hear from the people around her. This is the reason experts in child development recommend that babies (6) spoken to in adult language rather than in "baby talk." Children will learn to speak using the accent and intonation (7) hear. Learning baby talk first means that, inevitably, all children must devote themselves to unlearning the sounds of baby talk, (8) them with sounds actually used by adult members of their language community or that of their immediate caretakers.

(1)

イ. before ロ. since ハ. unless ニ. while

(2)

イ. frequent ロ. important ハ. noticeable ニ. possible

(3)

イ. advance ロ. narrow ハ. shape ニ. turn

ミニ読解 (会話形式)

【2017年 2月9日 大問2】

次の空所(1) \sim (7)を補うのにもっとも適当なものを、それぞれ対応する各イ~ニから1つずつ選び、その記号を解答用紙の所定欄にマークせよ。

Natalie: What kind of a place would you like to live in when you leave this apartment?

Reiko: Well, not too big, not too small. Maybe with a veranda (1) a garden.

Natalie: With some trees and a lawn?

Reiko: Yeah, a squirrel or two would be nice.

Natalie: And a swimming pool?

Reiko: No (2). This is Tokyo, not Florida!

Natalie: A squirrel or two might also be (3) too much, then.

Reiko: I could (4) with a stray cat or two instead.

Natalie: In a garden the (5) of "a cat's forehead" as the Japanese say.

Reiko: I'll be able to rent only a tiny apartment without a garden, (6) that my salary

will be like "a sparrow's tears."

Natalie: Maybe you can look for a place facing a little park, which is visited by some cats and

hirds

Reiko: That's a lovely idea. When I find one, do come and visit.

Natalie: I look (7) to playing with the cats.

(1)

イ. attaching ロ. next ハ. overlooking ニ. seeing

(2)

イ. possible ロ. problem ハ. reason ニ. way

【形式】

ミニ読解、会話読解の中で空所補充を行う。200語ぐらいの文章が相場。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

その年、学部によって、文法的な側面を問うのか、前後の文脈の理解を問うのか、表現を問うのか、焦点は変わってくる。いずれにせよ文章は難解ではないため、前後のキーワードを見ながら入れていきたい。レベルは易しい~標準といえる。5分程度で解き、ここで正答率7割は堅持したい。

③ 会話問題

【2018年 2月8日 大問4】

次の空所(1)~(5)を補うのにもっとも適当なものを、それぞれ対応する各イ~二から 1 つずつ選び、その記号を解答用紙の所定欄にマークせよ。

Shawn: What time does your flight get in?

Maggie: Around five tonight.

Shawn: So you should get to your hotel around six?

Maggie: Yeah, (1).

Shawn: I could meet you there. Then we can go have dinner somewhere.

Maggie: (2). I don't know anything about your city, so can you choose the place? If I

chose, it would just be a recommendation from the Internet.

Shawn: Of course. I know some restaurants. (3). Are you going to be busy all week?

Maggie: Just during the day. I'll have a ton of meetings, but I should be finished by four

every day.

Shawn: How about if I take you sightseeing at night then?

Maggie: (4)?

Shawn: No, not at all. What kinds of places do you want to see?

(以下省略)

(1)

1. that should be about right □. if you think I should go

/\. but I'll be so tired \qquad \qquad it must be the case

(2)

1. That's OK

Anytime is fine

Sounds great

 ☐. No, thanks

【形式】

対話を読み、空欄の発話を補充する。200 語程度の対話に 5~7 つ程度の空欄が施されているものも あれば、短めのものが複数出されるものもある。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

文脈、会話表現の両方が出題されている。一部、会話ならではのこなれた表現が難しいものがあり、 それらは難易度が高くなるが、それ以外は素直な文脈理解で埋めていくことができる。

MAX 入試問題アプローチ 2018 立教

④ 文法問題

空所補充

【2018年 2月11日 大問4】

次の $1\sim8$ それぞれの空所を補うのにもっとも適当なものを、各イ〜ニから 1 つずつ選び、その記号を解答用紙の所定欄にマークせよ。

1. Don't leave this room (1) you are asked to.

✓ . or

□. provided

ハ. unless

- 二. where
- 2. The manager gave a (2) explanation of the situation to the customers.

√. comprehended

□. comprehending

∴ comprehension

- =. comprehensive
- 3. After the war, the family had to (3) back on a very small income.

イ. drop

- □. fall
- ↗ lower
- 二. sink

文法語法 間違い探し

【2018年 2月8日 大問3】

次の 1~9 のそれぞれにおいて、下線部イ~二のうち、英語表現上正しくないものを 1 つずつ 選び、その記号を解答用紙の所定欄にマークせよ。

- 1. Each region $\sqrt{\frac{\text{has its}}{\text{many model}}}$ own history and traditions, $\frac{\text{so}}{\text{many model}}$ it is often difficult to $\sqrt{\frac{\text{do}}{\text{many model}}}$ about the country $\frac{\text{as a whole}}{\text{many model}}$.
- 2. The $\sqrt{\text{less}}$ you could have done $\sqrt{\text{after hurting Jacob's feelings}} / \sqrt{\text{was to say}}$ you're sorry I'm sure he would have $\sqrt{\text{appreciated it}}$.
- 4. ∠ <u>Unlike</u> nonhuman animals, many of which responses are automatic, human beings learn how to behave in the context of a particular culture.

欠如補充

【2017年 全学部 大問 4】

次の $1\sim8$ は、いずれもある単語が欠けているため、文法的に正しい文章になっていない。それぞれの文を正しい文章とするために補うのにもっとも適当な 1 語を、各イ~ニから 1 つずつ選び、その記号を解答用紙の所定欄にマークせよ。

1. The professor drew an analogy taking her course and climbing a mountain.

イ. against

□. between

→ concerning

=. for

2. A mirage is a type of image that appears to be real actually is not.

イ. but

口. it

ハ. still

二. with

3. Even people with only a passing in science are familiar with the name Galileo.

✓. affect

□. interest

ハ. knowledge

二. sympathy

2018年度はこの問題は見られない。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

文法、語法関係の大問が 1 つ出題される傾向がある。その出題形式は、単純な 4 択空所補充が主で、下線部の間違い探しが出題されることもある。難易度としては空所補充は易しめ~標準といった感じであり、センター試験で出題されるようなものも散見される。一方、間違い探しは、特に 2018 年度の 2 月 8 日は難しめの出題となっていたように感じる。なんとなく答えは選べるものの、どこが間違っているのか、さらにはどのように直したらよいのかという部分まですんなり答えられないものも見られた。熟語力に加えて、問題を多くこなす中で「こういう言い方はしない」という表現センスを身につけるように心がけたい。

⑤ 空所補充(筆記)

【2017年 全学部 大問 4】

次の空所(1)~(5)それぞれにもっとも適当な 1 語を補い,英文を完成せよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

Before a volcano erupts, magma rises from deep beneath the Earth, (1) the ground above to swell. It usually starts as a small movement on the side of a volcano or in its crater. It may be barely noticeable to the eye, but it can be seen from space.

Regular satellite data recording this change will be processed automatically and an alert is issued (2) scientists to follow up. This "red flag" does not mean an eruption is inevitable, but it ought to ensure those communities that live in the shadow of a volcano are not caught unawares (3) the situation gets worse.

"It's the volcanoes that are least monitored where this will have most impact. If people can be alerted ahead of time, it could (4) many lives," said Professor Andy Hooper.

COMET (Centre for Observation and Modelling of Earthquakes, Volcanoes and Tectonics) has conducted trials of the new satellite-monitoring system in Iceland and is now running it in prototype form across Europe and parts of Asia.

The plan next is to extend the automated detection of ground deformation to Africa and Central and South America. These regions have some very big explosive volcanoes that are covered only (5) limited ground surveys.

【形式】

200 語程度のミニ読解の中に5つの空欄があり、それを前後の文脈から考え、1語で補う。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

立教大学の特徴的な問題である。選択肢がないため、しっかりと文法や文脈から判断していく必要がある。難しいスペルを求められない問題の方が多いが、これまでには referred など注意すべき形が出題されることもあった。まずは熟語表現は外さずに答えたい。意味はもちろん最重要だが、構文を見て、品詞と形を定めることも注意したい。また、比較対照、並列されているキーワードがヒントになるケースも多い。最低でも3つ、できれば4つ正解したい。